

特許ニュースは

●知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術 予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1 カ年61,560円 6 カ月32,400円 本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び (科込み・配送料実費) 入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

平成 29 年 2 日(木)

No. 14375 1部370円(税込み)

行 所

一般財団法人 経済 産業調査会

東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル) 郵便番号 104-0061

[電話] 03-3535-3052

[FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町 1-7-4 (MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト http://www.chosakai.or.jp/

目 次

☆中国2015年知財に関する重要判例⑦ 文字著作物の著作権侵害認定に関する研究…(1)

中国2015年知財に関する重要判例で

文字著作物の著作権侵害認定に関する研究

- 瓊瑶と于正等との間の著作権侵害紛争上訴事件 -

林達劉グループ¹

北京林達劉知的財產研究所 北京魏啓学法律事務所

著者:魏啓学、李美燕

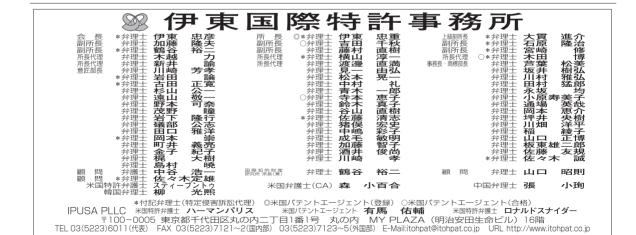
目 次

はじめに

- I 事件の概況
 - 1. 基本情報
 - 2. 事件の経緯
- 本事件の争点に関する判定

- Ⅲ 文字著作物の著作権侵害認定に関する研究
 - 1. 思想と表現との区別及びその認定
 - 2. 実質的類似性の認定について
- IV 著作権行使の際のコメント

おわりに



はじめに

本事件は、「2015年知的財産権司法保護に係る10大判例」から選出したものである。本事件は社会的に広く注目され、社会に非常に大きな影響を及ぼした。本事件の判決は、文学著作物の「実質的類似性」に係る判断方法及び判断基準を十分に説明し、文学著作物におけるプロットの選択、構成、プロットの進め方等について、如何に「思想」や「表現」として区別するかということに対して、指導的な意義を有した。

I 事件の概況

1. 基本情報

- ー審原告 (二審被上訴人): 陳喆 (ペンネーム 瓊瑶)
- 一審被告1 (二審上訴人): 余征 (ペンネーム 于正)
- 一審被告 2 (二審上訴人):湖南経視文化伝播有限公司
- 一審被告3(二審上訴人): 東陽歓娯映視文化有限公司
- 一審被告 4 (二審上訴人): 万達映視伝媒有限公司
- 一審被告 5 (二審上訴人): 東陽星瑞映視文化伝 媒有限公司

判決の情報

- 一審 北京市第三中等裁判所 (2014) 三中民初字 第7916号民事判決書
- 二審 北京市高等裁判所(2015)高民(知)終字 第1039号民事判決書

2. 事件の経緯

陳喆はペンネームを瓊瑤といい、1992年10月に 脚本「梅花烙」の創作を完成させたが、紙媒体で の公開発表はしなかった。怡人伝播有限公司が脚 本「梅花烙」に基づいて撮影を完成させた全21話 のテレビドラマ「梅花烙」は、1993年10月13日か ら台湾地区で、1994年4月13日からは中国 (湖南 テレビ第一局)でテレビ放送された。テレビドラ マのストーリーは、脚本とほぼ一致していた。ま た、脚本「梅花烙」に基づいて改編された小説 「梅花烙」は、1993年6月30日にその創作が完成し、 1993年9月15日から台湾地区で公開発行され、同 年中に中国でも公開発表され、その主なプロット は、脚本「梅花烙」と基本的に一致していた。小 説「梅花烙」の著作者の署名は陳喆であった。余 征は、脚本「宮鎖連城(全20話)」(別名「鳳環巣 之連城 |)に明記された作者で、その創作の完成日 時は2012年7月17日で、初めての発表日時は2014 年4月8日であった。また、テレビドラマ「宮鎖 連城 | は、脚本「宮鎖連城 | に基づいて撮影され たもので、その完成作品には、インターネット放 送用のノーカット版(全44話)とテレビ放送版(全 63話)があり、テレビ放送版は2014年4月8日か ら湖南衛星テレビで放送された。脚本「宮鎖連城」 は、脚本「梅花烙」に比べて、その人物関係がよ り複雑であり、ストーリーが込み入っていた。陳 詰は著作権侵害を主張し、余征及び湖南経視文化 伝播有限公司、東陽歓娯映視文化有限公司、万達 映視伝媒有限公司、東陽星瑞映視文化伝媒有限公 司を被告にして裁判所に訴訟を提起した。陳喆が 主張した侵害に当たる内容は、主に脚本「宮鎖連 城一の前半部分に集中されていた。北京市第三中 等裁判所は、「余征等が、著作物に対して陳喆が 有する翻案権及び撮影製作権を侵害している。」と 判示して、テレビドラマ「宮鎖連城」の各制作者 に対して、当該テレビドラマの複製、発行と伝達 行為の即時差止めをすること、脚本者余征に対し て、SINAサイト、SOHUサイト、楽視サイト、鳳 凰サイトの顕著な位置に謝罪声明を掲載して、陳 と各制作者に対して、連帯して陳喆の経済的損失 と訴訟上の合理的支出計500万元を賠償すること を命じる判決を言い渡した。その後、余征等が一 審判決を不服として上訴したが、北京市高等裁判 所は、一審判決を維持する判決を言い渡した。

Ⅱ 本事件の争点に関する判定

本事件は、陳詰が主張した人物関係、関連プロットは「著作権法」による保護を受けられるか否か、被疑侵害著作物は係争著作物と実質的類似であるか 否かという争点に及んでいた。

これらの争点に対する一審裁判所と二審裁判所の 観点は基本的に一致していたので、ここに二審裁判 所の観点のみ紹介する。

【二審裁判所】

脚本と小説はいずれも文学著作物に該当し、文学 著作物における思想と表現とを区別することは複雑